

平成23年度科学技術戦略推進費「ゲノム情報と電子化医療情報等の統合によるゲノムコホート研究の推進」の審査経緯及び結果概要について

平成23年9月15日

文 部 科 学 省

1. 審査経緯

(1) 公募の実施

平成23年度科学技術戦略推進費について、平成23年6月1日（水）～平成23年6月30日（木）の期間において、一般公募を実施した。

(2) 審査の実施

文部科学省（研究開発評価部会）が審査要領を決定した上で、プログラムディレクター（以下「PD」）及びプログラムオフィサー（以下「PO」）の協力の下、審査を実施した。

○平成23年7月7日（木）第39回研究開発評価部会

・平成23年度審査要領を決定した。

○提案プロジェクトについて、「ゲノム情報と電子化医療情報等の統合によるゲノムコホート研究の推進」作業部会において、以下の審査を実施。

①書 面 審 査：評価項目及び審査基準に従って書面審査を実施

②第1回作業部会：書面審査の結果に基づき、ヒアリング対象プロジェクトの絞り込み（7/25）

③第2回作業部会：ヒアリング審査を実施し、採択候補プロジェクトのとりまとめ（8/12）

○平成23年8月23日（火） PD・PO会議

各作業部会が選定した採択候補プロジェクトについて、適切であることを確認してとりまとめた。

○平成23年8月24日（水） 第40回研究開発評価部会

PD・PO会議が確認して研究開発評価部会に提出した採択候補プロジェクトの中から採択プロジェクトを決定した。

○平成23年9月15日（木） 総合科学技術会議へ実施プロジェクトの選定結果報告

○平成23年9月15日（木） 採択結果公表

2. 審査結果概要

プログラム名	提 案 件 数	ヒア リ ン グ 件 数	採 択 件 数	採 択 比 率 (%) (採 択 件 数 / 提 案 件 数)
社会システム改革と研究開発の一体的推進プログラム ゲノム情報と電子化医療情報等の統合によるゲノムコ ホート研究の推進	8	5	1	12.5

3. 今後の予定

○審査結果通知（平成23年9月15日（木））

提案者に審査結果とともに、採択に際しての条件、不採択理由等、審査におけるコメントを付して送付。

○財務省実行協議（9月）

○交付決定（10月予定）

平成 23 年度 科学技術戦略推進費「ゲノム情報と電子化医療情報等の統合によるゲノムコホート研究の推進」採択プロジェクト

新規にゲノムコホート研究を行うため、研究のデザインを行い、想定される課題について、それぞれ検討会を開催し、研究のプロトコルを検討する。検討に当たっては、将来的に全国展開可能なように、それぞれの方法の標準化を目指す。これらの検討結果を基に、実施計画を作成し、ゲノムコホート研究を実施する準備を終える。同時に、対象者の電子化医療情報を、コホート研究の情報に効果的・効率的に統合するための検討等を行う。

応募件数 8 件 採択率 12.5%

提案プロジェクト名	代表機関名	総括責任者名
大規模分子疫学コホート研究の推進と統合	独立行政法人 国立がん研究センター	嘉山 孝正

平成 23 年度科学技術戦略推進費

「ゲノム情報と電子化医療情報等の統合によるゲノムコホート研究の推進」作業部会 における審査結果

提案プロジェクト名	代表機関名		総括責任者名		提案プロジェクトの概要	採択コメント
大規模分子疫学コホート研究の推進と統合	独法	国立がん研究センター	理事長	嘉山 孝正	わが国において大規模分子疫学コホート研究を推進する上で重要となる、現行大規模分子疫学コホート研究のコンソーシアム構築とその統合ノウハウを開発する。開発したノウハウにより現行分子疫学コホートを統合し、さらに多くの地域集団のコホート研究集団への参加と新規地域での立ち上げを促すことにより、コホートのコンソーシアム規模を拡大させ、最終的に、数十万規模の、わが国における大規模分子疫学コホート研究の構築と統合解析を実現させるのが本研究の狙いである。	代表機関は、多目的コホート研究（JPHC）など大規模コホート研究を長年にわたり継続して実施しており、大規模ゲノムコホート研究を実施するに十分な研究体制、実績を有している。これまでの経験を踏まえた具体性・実効性のある事業計画、大規模コホート研究において 98%という高い追跡率を可能にする機関の組織力、多目的コホート研究の立ち上げにおいて中心的役割を果たした研究代表者のリーダーシップが高く評価された。また、代表機関は国内外の大規模コホートコンソーシアムにおける統合解析の豊富な経験を有することから、国内で展開される現行大規模コホート研究の統合を実現し、我が国の大規模ゲノムコホート研究を牽引する中核拠点になるものと期待される。 なお、追跡調査において、がん以外の疾患にも十分留意するとともに、将来的にはバイオインフォマティクスによる大量ゲノム情報の解析を行うことが必要である。また、リシークエンスの実施、及びゲノム情報収集の標準化のための体制構築が望まれる。さらに、ゲノムコホート研究の中核拠点として、現行大規模コホートコンソーシアムと積極的なネットワーク形成を図ることが期待される。 【採択条件】 追跡調査においては、がん、循環器疾患、糖尿病に加え、うつ病、認知症等も視野に入れ罹患情報を把握すること。また、バイオインフォマティクスの解析力を強化するため、その人材育成に努めること。